

2026 年度 (令和 8 年度) 学校評価自己評価表

城西 中学校区	校番 9	福山市立 泉 小学校
最終更新日		2026年(令和8年)4月1日

I 福山市

めざす姿	すべてのこどもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

前年度学校運営協議会 (学校関係者評価)の主な内容	児童生徒の現状	育成する 資質・能力	コミュニケーション力・表現力・忍耐力
○こどもたちが意欲的に授業や行事に取り組んでいる様子が見られ、一定の成果が出ている ○地域とのかかわりを重視した学習活動に取り組み、情報発信を積極的にしている ○ボランティア・スタッフとしての参加があるなど、こどもたちの地域行事への参加が増え、今後にも期待したい ○より多くのこどもたちが地元の学校で過ごせるように、魅力づくりを進めたい	○こどもたちの「学び」に向かう姿勢は、主体的・協働的になりつつある ○学習活動を通して、地域のよさをとらえ、よりよい町づくりについて考える児童生徒が増えている ○「基礎学力と基本的な生活習慣の定着」をめざし、学校での「学び」と家庭学習とのつながりをつくる ○こどもたちの気持ちに寄り添い、状況改善に向けて、伴走的な取組を進める	めざすこども像 (義務教育修了時の姿)	地域に愛着と誇りをもち、心豊かにたくましく生きる子ども
		中学校区として 統一した取組等	☐ 自己肯定感を高める(児童会・生徒会の合同活動・中学校オープンスクール) ☐ コミュニケーション力・表現力・忍耐力をつける(幼保小中連携教育・合同授業研究) ☐ 健康への意識を高め、体力向上を図る (体力向上の取組・体力テストの分析・生活改善の取組・校区保健だよりの発行) ☐ 学校・地域が一体となった取組の推進

III 自 校

学校教育目標
自ら学び、仲間とともにたくましく生きぬく子どもを育てる

現 状
<児童> 自己表現の仕方やコミュニケーションの取り方に課題がみられる。このことにより、友達に自分の思いを上手く伝えられずに、相手に勘違いされトラブルになることがある。また、学力面では、標準学力調査の国語科では、漢字の書き取りに成果が見られ、長文から情報を抜き出したり、自分の考えを書いたりする問題に課題が見られた。算数科では、計算問題に一定の成果が見られ、文章の内容理解に課題が見られた。本校の児童は、文章を正しく読み取り、情報整課することに課題がある。 新体力テストでは、走力や持久力などに課題がみられた。体育の授業でこれらの課題が改善できる運動を継続して実施している。 <授業> 昨年度は、アセスアンケートや授業ポートフォリオから、児童の実態を把握し、児童のつまずきを考え、つまずきに対する手立てを行い、より良い学習環境の改善を図った。また、教科書の音読を繰り返し行ったり、わからない言葉の意味調べを行ったりする等、多くの言葉に触れられるような授業づくりを行った。しかし授業では、人の話を聞くことができない児童や自分の考えをもてない児童など、学習に集中して取り組むことができない児童が多く、学習規律の徹底が必要である。

育成する 資質・能力	コミュニケーション力・表現力・忍耐力
めざす こども像	○自分や他者を理解し、自ら考え判断し、表現する子ども <表現力> 様々な場面で言葉や技能を用いる。 信頼できる知識や情報を収集し活用する。 <コミュニケーション力> 目標を達成するために、他者と協働する。 意見の対立や理解の相違を互いの違いを認め合いながら解決する。 <忍耐力> 感情をコントロールし、ルールを踏まえて建設的な意見を述べる。 見通しをもって計画的に行動し、軌道修正しながら最後までやり遂げる。
研究	テーマ 「わかった」「できた」と実感できる国語科授業づくり ～学習目標をもち、「とことん読もう」とする児童の育成を目指して～ 内容等 国語科授業では、学習目標の達成に向けて「読む」「書く」「考える」「伝える」を児童が夢中になることができる授業づくり
めざす授業の姿	・課題に対して、分からない言葉を調べたり、学んだ言葉を活用したりするなど粘り強く読み返したり、考えたりすることができる授業 ・仲間との対話で考えを伝え合い、課題解決をすることができる授業 ・児童が「わかった」「できた」「次はこうしたい」という思いや自信をもつことができる授業

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
4	課題を見出し、解決に向けて挑戦する意欲と諦めずに学び続ける力を付ける。	★	継続	児童が、自らの伸びや成長を実感することができる。 ・児童アンケート「授業を通して成長を実感することができる」肯定的評価90%以上	・学習規律を徹底させる。 ・標準学力調査の課題を踏まえて国語科授業を充実させる。 ・保護者と密に連携し、家庭での生活リズムを定着させる。	・標準学力調査の国語科結果40%未満の児童10%以下 ・児童アンケート「授業はわかる、できた実感できる」肯定的評価90%以上									
4	誰もが自分らしく学ぶことができる学校づくりに貢献できる。		継続	児童が、学校生活をよりよくするために、できることを考え行動することができる。 ・児童アンケート「みんなが気持ちよく生活できるように考えて行動している」肯定的評価90%以上	・委員会、学級内の係等の常時活動を充実させる。	・児童アンケート「学校は安心して生活できる場所である」肯定的評価90%以上									
4	自ら進んで健康保持、体力向上に努める。		継続	児童が、健康について課題意識をもち、改善に取り組むことができる。 ・児童アンケート「生活習慣を意識して生活している」肯定的評価	・福山市生活習慣7つの目標をもとに、スマホ・ゲームの使用時間を考える「チャレンジメディア」を実施する。	・チャレンジメディア実施後アンケート「目標が守れた」肯定的評価70%以上									

				70%以上											
4	教職員が児童に元気を与え、職務にやりがいを感じることのできる職場環境を醸成する。	継続	職員が、自らの個性や能力を発揮し、ワークライフバランスを充実させる。	・「モーニング5(児童超早帰りの日)」の実施、会議の精選等に取り組み、各教職員の「余白」の時間をつくる。	・教職員アンケート「仕事にやりがいを感じている」肯定的評価90%以上 ・年間時間外在校時間「360時間以内」90%以上										

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 泉 小学校

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。